

7. 2008年度日本数学会賞春季賞、 出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき、春季賞は神戸大学大学院理学研究科の高岡秀夫氏に授賞されました。授賞理由は‘非線形分散型方程式に対する大域解析理論’に関する業績です。また、3月24日年会会場で授賞式並びに同氏による‘非線形分散型波動方程式の大域解析’と題する受賞記念総合講演が行われました。

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき、出版賞はつぎの3組の方に授賞されました。授賞式は3月24日年会会場で行われました。

大竹進氏

授賞理由：永年にわたり、東京図書編集者として、また退社後は大竹出版を設立し、ロシア語の優れた数学書の翻訳出版にたずさわり、日本における数学の進展に大きく寄与した。

北野武氏

授賞理由：番組‘たけしのコマネチ大学数学科’など社会に広範な影響を与えるテレビメディアを通じ、数学の魅力や美しさを娯楽性を兼ね備えた形でわかりやすく伝え、数学の普及に貢献した。

山内恭彦・杉浦光夫 著 ‘連続群論入門’

授賞理由：本書はリー群の表現論の入門書として歴史的な役割を果たした。行列より始めて、リー群の表現や球関数に至る高度な内容を丁寧な解説し、数学だけでなく物理学を学ぶ読者からも高い評価を得ている。